

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年9月19日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677700173
法人名	有限会社 三木
事業所名	グループホーム おおきな木
所在地	鹿児島県肝属郡南大隅町根占川南3611番地 (電話) 0994-24-2001
自己評価作成日	令和元年8月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和元年9月9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

所在地が町の中心部にあり、家族が面会に来られるのに利便性が高く町の社会福祉協議会に隣接し避難場所としても、情報の共有化もしやすい。かかりつけ医院まで車で2分と近く24時間緊急時は訪問診療が可能で、入院可能な肝属郡医師会病院病院まで8分程度で搬送が可能である。ホームの玄関に「大きな楠」があり利用者の憩いの場所となっている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は玄関前に大きな楠があり、利用者の憩いの場となっている。商店や社会福祉協議会も隣接し利便性が高い。散歩や買い物の際には挨拶や会話を楽しめる環境である。
- ・理念と介護方針、職員の心得を事業所内に掲示している。毎朝、利用者と一緒に理念を唱和し、利用者が笑顔で自分らしい生活ができる事を目指している。
- ・自治会に加入し、地域と情報を共有している。集落のみこし連の立ち寄りや事業所での花火大会にも多くの地域の人々の参加があり、交流の場となっている。地域の介護相談にも対応したり、野菜の差し入れがある等、日常的に地域と交流している。
- ・契約時に、重度化や終末期に向けて事業所でできる事とできないことを説明し、状況変化に伴い段階的に医師と話し合い、家族と方向性を共有できるよう取り組んでいる。看取りの事例もある。
- ・代表者や管理者は職員育成に力を入れ、資格取得に向けた支援を行っている。職員間のコミュニケーションも良く、食事を楽しむことや排泄の改善の支援に力を入れ、利用者や家族の信頼や喜びも大きい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員理念・介護方針・職員の心構えを基本として職務に取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念を玄関や事業所内に掲示し、パンフレットにも掲載している。朝、利用者も一緒に唱和している。介護方針や職員の心構えも掲示している。職員会議等で確認し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	中学生・高校生の職場体験の受け入れ、地区の消防団員との避難訓練を行ったりして、地域との交流している。地域の方からの野菜の差し入れをいただくなど日常的に交流している。	自治会に加入し、回覧板等で情報を得ている。事業所の花火大会には地域の人々の参加もあり交流の場となっている。地域消防団員との避難訓練、中学生や高校生の職場体験学習、集落のみこし連の立ち寄りやボランティアの受け入れ、野菜の差し入れ等もあり、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	毎年中学生と高校生の福祉体験学習の受け入れ利用者様と触れ合いながら、学習に取り組んでもらっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者様の日常の活動内容の報告と会議での家族の要望・行政からの提案等を検討してサービスの向上に努めています。</p>	<p>会議は定期的開催している。事業所の状況やヒヤリハット・事故報告・外部評価結果報告等を行い、意見交換をしている。道路の段差やスロープ・玄関のひさしの改善等を行い、サービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>相談事や分からない事がある時には直接行って相談したり、電話等で電話等で連絡を取り合うようにしている。</p>	<p>市担当者とは、窓口に出向いたり、電話で事業所の実情や取り組みを伝え、連携を深めている。運営推進会議を通して協力関係もできている。市主催の研修会にも積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>処遇会議等で身体拘束の知識を深め拘束の無い介護を行うように取り組んでいます。</p>	<p>身体拘束廃止委員会でマニュアルに沿って毎月勉強会を実施したり、外部研修に参加し、対象となる事例検討会で職員の共通認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。特に言葉による拘束については、日々確認している。日中の玄関の施錠はせず、職員間の連携で安全な暮らしを支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>処遇会議等で話し合いや意見交換することで虐待防止の徹底につなげています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>外部の研修会が少ないので管理者を中心に内部研修しているが難しい。理解する努力をしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>施設での不安が無い様に入所時に十分に説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時、居室担当者を中心に職員で意見や要望を伺っている。</p>	<p>利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞き対応している。家族からは面会や家族会、行事参加時、電話などが意見を聞く良い機会となっている。毎月の便りで近況報告等も送付している。返信もある。出された要望により、服薬の説明書を渡す等、意見を運営に反映させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	一時期職員会議が無くなっていたが、今年の5月より再開して代表者に意見を出す機会が出来た。	管理者は申し送りや職員会議、業務推進会議等で意見や提案を聞く機会を設け、反映を図るよう心がけている。出された提案で老朽化した洗濯機を整備したり、褥瘡対応のマットを購入する等、ケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者が常に目を配り管理者や職員の勤務状況を把握し個別に注意したり、励まして向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は月1回の職員会議・業務推進会議で職員の意見を聞いたり、管理者とほぼ毎日連絡を取り合いケアの実際と職員の力量を把握している。研修も機会あるたびに参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設と電話で連絡を取り合い、サービス質の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者に早く慣れてもらうために、常に声掛けして不安や心配を持たせないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の段階で家庭での過ごし方等を確認して、出来るだけ要望に応えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の家庭での状況を確認しどのような支援が必要か見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	こちらから強要せず自然に過ごせるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月近況報告書を送付している。必要に応じて電話で連絡している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の方がホームに遊びに来たり、月1回の病院受診時になじみの方と会ったりして話をされている。	家族や知人の訪問を奨励し、一緒にお茶を飲んだりしている。医療機関受診時に友人と出会ったり、行きつけの場所での買い物、電話の取次ぎなども行って、継続的關係が途切れないよう働きかけている。家族の協力で外出や外食・理美容院利用・墓参に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昼寝以外ホールで過ごしているので孤独になることは無くレクリエーション活動等で楽しく過ごされている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、ご家族が来所して下さり近況を聞いたり、励ましている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	処遇会議を開催し利用者の希望や思いを把握しケース記録や、申し送りノートで共有し意向に添えるようにしている。	日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情などから、思いや意向の把握に努め、ケース記録や申し送りノートをもとに、処遇会議で共有し意向に沿えるように対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の一人一人のリズムを尊重しその人に合わせた生活が送れるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の出来る事を実施してもらっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	処遇会議や退院後心身の状況を話し合いチームより良い処遇が出来るように介護計画を作成している。	処遇会議での情報をもとに、本人・家族の意向を確認している。担当者会議で話し合い、個々に応じた介護計画を作成している。6ヶ月ごとにモニタリングを実施し、必要時に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や業務日誌を記録して職員間で共有している。申し送りノートや受診ノートも活用している。状態が変化したらその都度見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の多様なニーズに対応するため職員それぞれが連携と研鑽に努め対応できる体制を作っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや家族の方々の協力をもらいながら支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	28日毎にかかりつけ医に日常の状態を診察してもらい、家族とも連絡して、適切な医療が受けられるように支援している。	本人及び家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。定期的な訪問診療で対応している。他科受診は状況を提供し、家族の協力を得て支援している。緊急時の対応などには連携を取りながら適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員は不在であるが、申し送りノート等で全職員で共有して支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時は病院を訪問して病院関係者や家族とも密に連絡し、情報交換し早期退院に向け話し合いを行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>状況や状態により家族の方と話し合いを行い、ホームでどこまで支援が出来るか説明し話し合い支援している</p>	<p>契約時に重度化した場合や終末期のあり方について、本人や家族と話し合いを行い、事業所で出来る事と、出来ない事を説明している。状況変化に伴い、段階的に医師と話し合い、家族と方向性を共有できるよう取り組んでいる。看取りの事例もある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>利用者の急変や事故発生等気付きに取り組み全職員市民救命士の講習を受け定期的に訓練も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署立ち合いの下地域の消防団と連携し全職員が活動できるように訓練している。</p>	<p>消防署の指導の下に年1回、地域の消防団との連携で年1回、地震や津波も想定して避難訓練を実施している。地域との協力体制もできている。スプリンクラー、緊急通報装置も設置し、災害マニュアルも整備している。定期的に設備点検も実施している。取り外しのできる段差の設置や玄関前のひさしの整備、道路への段差改修などを行い、安全に避難できるよう工夫している。水・米・ビスケット・インスタントラーメン・羊羹等の備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を尊重しプライバシーを損なわない様声掛けしている。	職員会議等で話し合い、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないケアに取り組んでいる。入浴やトイレ誘導などでは羞恥心に対する配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞いて本人としっかり話し合い支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせて楽しく過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	入浴時や病院受診時衣類を選んだり外出時に化粧をして外出される方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事だけでなく準備やかたづけを出来る方はお願ひし、楽しくできるように支援している。	専任の調理員が、嗜好に配慮し、個々に応じた食事形態で提供している。準備や下膳など職員と一緒にいたりもする。誕生祝い・季節の行事食・外食でのソーメン流し等、食事が楽しみなものになるよう工夫している。職員も一緒にテーブルを囲み食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の栄養バランス・量を考え、水分補給も毎日チェックして誤嚥をしないように注意している。必要に応じてトロミを利用している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを見守り出来ない所を支援している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗を少なくするため定期的に声掛けをしてトイレ誘導をしている。	排泄のリズムを把握し、必要に応じての声かけを行い、トイレでの排泄や排泄の自立を支援している。夜間のポータブルトイレ利用者もいる。排泄用品が改善された例では、本人や家族の喜びも大きい。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事や水分も多く摂ってもらい便秘が続くようなら、医師に相談し薬を処方してもらう。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	その人に合った入浴方法でシャワー浴、浴槽浴を実施している 身体の状態により全身清拭を実施している。	入浴は、体調や希望にそって柔軟に対応し、浴槽に浸かったり、シャワー浴、清拭、陰部洗浄など行ったりもする。入浴を拒む利用者には、声かけなど職員間で連携して支援している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間に関係なく本人に合わせた休息・毎日昼寝をされている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師と連携を図りながらその時の状態と処方の変化を確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>その人の誕生日のお祝いや季節に応じた行事を計画し、楽しみと気分転換ができるようにしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>天気の良いときはドライブや自宅・墓参りに出かけたりしたときは、買い物を楽しんでもらっている。</p>	<p>日常的には周辺の散歩や通院を利用して出かけている。ユニット間の行き来は自由で、交流が図られている。希望で買い物や墓参にも出かけている。年間計画を立て、花見やブドウ狩り、ソーメン流し、イルミネーション見物に出かけている。家族の協力で外泊や外出・外食・墓参等に出かけている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>日常は職員の管理であるが、小さい財布を用意しドライブ時や花見等少しお金を持っていき買い物を楽しんでもらっている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>贈り物が届いたとき電話をしてもらっている、毎月の近況報告書の中に手紙を入れて送付している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホームはいつも明るく、ゆったりとした生活空間があります室温換気も十分配慮がされています。また、季節に合った花がいつも飾られ利用者の方々がつるげるように配慮しています。</p>	<p>共用空間は採光や換気・温度・湿度に配慮し清潔である。壁には利用者の行事の写真や折り紙などを掲示し、季節感を大事にした飾りつけである。畳のコーナーや多くのソファがあり、居心地よく過ごせるような工夫がされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合った利用者同士が楽しく過ごすことができるようにしている。また、ゆっくりくつろげるようにフロア内にソファも準備している。</p>	/	/
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自分で自宅で使用していた物や家族の飾ったりし、本人様が居心地よく過ごせるようにしている。</p>	<p>居室はベッドやタンス・洗面台が備え付けである。寝具・遺影・ぬり絵・カレンダー・家族の写真等、使い慣れた物や家族の思いが伝わるものが持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮してある。必要に応じてポータブルトイレが置かれている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者の状態に応じ車いすや歩行器を利用している。</p>	/	/



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない